

## 池

しみ<sup>そ</sup>初めた楓の透きとほり

見上げては手をかざす

うす<sup>くれなひ</sup>薄紅とこぼれるきらめき

するりと腕<sup>かひな</sup>を抜ける夢のぬくもり

なびいては力なく身を任す糸に  
託す、支えきれぬ蟠りのぬけがら

雨に散り落ちた木蓮の香り  
照り映える水に溶けてほのかに揺れ  
あなたの足を止めさせる、ふと・・・

行き過ぎて振り返る      まぼろし  
見上げては手をかざす

こ<sup>ま</sup>木の間から見えかくれするきらめき

行き過ぎて振り返る      まぼろし  
見上げては手をかざす  
まどろみへと散る一艘の楓

(1984.10.14)